

成果の説明書

(氏名) 藻利 衣恵	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 現在、15年ほどの研究のとりまとめを行っており、毎週、専門の先生方と検討会を行っている。本年度も、引き続き、それを継続する。2022年5月に、その途中経過を、東北大学の監査理論研究会の研究打ち合わせで報告した。</p> <p>(2) 「FASBにおけるストック・オプション会計基準の分析——その原則処理と測定方法を中心に——」と題する原稿を執筆し、2023年3月の名古屋大学の『経営科学』第70巻第3号（野口晃弘先生退職記念論集）に掲載される予定である。それに当たり、研究の経過報告を現代資本会計研究会（名古屋大学）で報告した。</p> <p>(4) 勤務日説の意義に関する論文を英語で執筆しており、現在、国際査読誌への投稿準備を行っている。投稿準備にあたり、プレ査読の結果は良好であり、2023年3月の投稿を予定している。</p> <p>(5) (4)に加え、測定日と株式報酬費用の配分に関する原稿を英語で執筆しており、現在、国際査読誌への投稿準備を行っている。これも、2023年4月の投稿を予定している。</p> <p>【教育活動】</p> <ul style="list-style-type: none">● 講義 <p>【財務会計Ⅰ・Ⅱと上級簿記】</p> <p>本年度から、公式LINEを作成し、そこから出席確認を行うこと、また、Formsのリンクを配布してミニクイズや確認テストを行うことにより、双方向講義を行った。このことは、公式LINEの管理ソフトの会社であるLinyのホームページで、導入事例として掲載される予定である。</p> <ul style="list-style-type: none">● ゼミ <p>全学年に対して、対面講義ないしはZoomを利用したリアルタイム型講義を行った。また、OB・OGを含めたZoom飲み等により、交流を図るようにした。</p> <ul style="list-style-type: none">➢ 基礎演習（2年）：履修者のレベル差が激しい学年であるため、個々の学生の知識の定着度合いにあわせた質問をゼミ中に投げかけ、学生の理解を深めようと試みた。簡単なゼミではないが、履修者全員が頑張っている。➢ 演習Ⅰ：昨年度に引き続き、2グループでグループ研究を行った。その結果、日経インナー大会・学長杯は予選落ちに終わったものの（うち、学長杯は学生のプレゼンの練習不足）、その際に高レベルなプレゼンテーション作成・発表能力を獲得し、12月の明治学院大学（山田ゼミ）・武蔵大学（山下ゼミ）・國學院大学（中田ゼミ）とのインターゼミでも、うち1班が優勝を獲得した。➢ 演習Ⅱ：自由テーマの論文をほぼ全員が提出し、2月卒論発表会・謝恩会をオンラインで行った。卒業論文集は、学内で図書館に所蔵し、ホームページでも掲載した。 <ul style="list-style-type: none">● 大学院 <ul style="list-style-type: none">➢ 財務会計研究：正規の履修者はいなかったが、大学院進学予定者および難関資格試験受験生に対して講義を開放し、日本基準ができた理論的背景に関する説明を行った。	
2 その他の事項	

- 例年の業務に加え、大学院担当が増えたため、研究科会議等の大学院の業務に従事した。
- 大学院・入試管理委員
- 日本学生経済ゼミナール関東部会 第 62 回インナー大会 プレゼンテーション部門審査員
- ジャパンエレガンススタイルアカデミー ビジネスマナー講師 取得
(すでに実践テーブルマナー講師および教養エレガンスマナー講師の資格も取得しているため、認定講師の資格も取得)
ほか

3 次年度以降の計画・抱負

【研究活動】

- 研究のとりまとめを継続する。
- 国際査読誌への 2 本の投稿を目指す。

【教育活動】

- 昨年末に、他の教員と、会計カリキュラム動画を作成したので、それを利用しながら指導を行う。
- 昨年度から新任教員が入り、前提科目の内容や担当科目の内容が変わったので、その準備と調整を行っていく。(特に、本年度から、財務会計Ⅱは、国際会計の講義を行うため、新たにレジュメの準備を行う予定である。)
- 昨年度から開始した公式 LINE による双方向講義がうまくいったので、本年度からそれをより精緻化させていく。
- 大学院講義についても、内容をより精緻化させていく。